

留学生のアカデミック・キャリアおよび ビジネス・キャリア支援のためのコース開発

尹 智鉉

寅丸 真澄

設置主旨

本プロジェクトでは、留学生のためのキャリア支援を目的として、テーマ科目の整理・整備と、それを踏まえた「アカデミック・キャリア」「ビジネス・キャリア」の新たなコース開発を目指し、以下の3点に関する基礎調査と分析を実施した。

【課題1】日本のアカデミック・キャリア、ビジネス・キャリアに求められるスキルおよびリテラシーに関する概念の精緻化・明確化

【課題2】日本の高等教育機関またはその他教育機関において実施されている既存のキャリア支援のための科目・コースの現状分析

【課題3】コース設計のための枠組みと方法論に関する理論的検討

1. プロジェクトの目的と経緯

本プロジェクトの申請者2名はこれまで日本語教育研究センター（CJL）のテーマ科目ワーキンググループ（WG）として、テーマ科目群における9つのカテゴリ導入を含む、科目の整理・整備と教員配置を担当してきた。具体的には、テーマ科目群のカテゴリ別／レベル別科目分布や履修倍率などの調査結果から学習者のニーズや科目履修動向を分析し、適正な科目提供や教員配置を行ってきた。そのなかで、学内外の諸状況から、留学生のキャリア支援のための科目を設置した新たなコース開発へのニーズが高まっていることを改めて強く認識するようになった。また、これまでは新規科目・コース開発のために、主にセンター内のデータ分析を中心に進めてきたが、特にキャリア支援のためのコース開発のためにはセンター外の現状分析および社会のニーズ分析が不可欠であると考え、本プロジェクトを申請するに至った。

2. 2020年度の活動実績

2020年度における本プロジェクトの活動実績の概要を時期別にまとめると下記の通りである。

2-1. 2020年4月～2020年5月

Web データを活用した基礎調査を実施した。実施にあたって、日本語教育研究科修士課程の大学院生4名に作業補助を依頼した。具体的には、研究代表者と研究メンバーで、①依頼内容の具体化・資料作成を行い、②その内容に基づいて作業補助者を募集・決定し

た。5月29日には、研究代表者、研究メンバー、作業補助者の全員で第1回打合せをオンラインで実施した。

2-2. 2020年6月～2020年8月

【課題1】と【課題2】の資料調査、整理、分析を行った。「アカデミック」部門は研究代表者と2名の作業補助者が担当し、「ビジネス」部門は研究メンバー1名と作業補助者2名が担当して、それぞれの資料調査、整理、分析を進めた。研究代表者と研究メンバーの2名は、各部門の進捗状況を随時報告し合い、資料の整理および分析方法について意見交換を重ねた。

2-3. 2020年8月～2020年9月

【課題3】のため、8月中に研究代表者と研究メンバーで計5回（各2時間）のオンライン勉強会を実施した。プロジェクト費用のうち、図書費を枠から参考図書を購入し、各自が各回の課題図書を予め熟読したうえで、本学の留学生のキャリア支援のためのコース開発に活用できる知見を抽出、整理した。取り上げた課題図書は、『シラバス論』（芦田2019）、『日本語教師のためのCLIL入門』（奥野ほか、2018）、『プロジェクト学習の基本と手法』（鈴木、2012）などである。

また、これまでの議論の結果と得られた知見を踏まえ、新規科目設置のための理論的枠組および教育方法論について検討した。検討結果は、「早稲田大学の日本語学習者が育むべき『アカデミック・コンピテンシー』とは何か」（尹・寅丸2021）と「早稲田大学の日本語学習者が育むべき『ビジネス・コンピテンシー』とは何か」（寅丸・尹2021）というショートノート2本にまとめ、『早稲田日本語教育実践研究』第9号に投稿した。本研究プロジェクトで実施した調査、分析結果の詳細については、本ショートノートの内容を参照願いたい。

2-4. 2020年9月～2021年1月

【課題1】【課題2】【課題3】の調査・分析の結果を総合し、アカデミック・キャリアおよびビジネス・キャリア形成を支援するための科目設置案をまとめ、箇所内で報告を行った。その結果、留学生のキャリア支援のための新規科目として「PBLで学ぶアカデミック・キャリア7-8 (Exploring Academic Careers through Project-Based Learning (PBL) 7-8)」と「PBLで学ぶビジネス・キャリア7-8 (Exploring Business Careers through Project-Based Learning (PBL) 7-8)」の設置が決定した。

2-5. 2021年1月～2021年3月

両科目のシラバス作成について協議を重ね、必要な資料の作成を行った。早稲田大学の教育ビジョンの一つは、「人間力・洞察力を備えたグローバルリーダー」を育成することである。これらの科目では、留学生のキャリア支援に焦点をあて、世界の様々な国や地域で活躍し、社会に貢献できる人材の育成をめざす。以下、各科目のシラバスから「授業概要」の一部を抜粋した内容である。

尹智鉉・寅丸真澄／

留学生のアカデミック・キャリアおよびビジネス・キャリア支援のためのコース開発

◆「PBLで学ぶアカデミック・キャリア7-8」の授業概要

早稲田大学を含む日本国内外の大学および大学院には、数百以上の専攻とコースがあります。どの学問を専門とするかによって、考え方も関心も大きく違います。また、自分の興味や能力に合った専攻／コースを選ぶことは、アカデミック・キャリアにおいて重要な要素です。一方、異なる専門や考え方、関心をもつ人たちが集まれば、同じテーマをいろいろな角度から見ることができ、学びも議論もそれだけ刺激的になります。この授業では、早稲田大学で学ぶ多様な留学生と共に、「主体的・対話的な学び」そして「実践的な学び」を通し、アカデミック・スキルを総合的に向上させます。

また、この授業の成果発表の場として、期末に「学びのエキシビション」(学修成果の報告・共有のためのイベント)が予定されています。これは「PBLで学ぶビジネス・キャリア7-8」との合同開催になりますので、準備活動のなかで合同授業を行うこともあります。

なお、この授業は、4限と5限に連続して実施されます。4限は大学や大学院での学修活動に必要なアカデミック・ジャパニーズについて学びます。5限はPBL(Project-Based Learning; 課題解決型学習)の活動を中心に、自ら問題を発見し解決する能力を養っていきます。

◆「PBLで学ぶビジネス・キャリア7-8」の授業概要

現代は、急速にグローバル化が進んでいます。皆さんは、早稲田大学修了後、世界の様々な国や地域でビジネス・キャリアの一步を踏み出します。どのような国や地域、社会文化においても、仕事を通して社会参加し、充実した生活を送るための能力やスキルが必要になります。

この授業では、「主体的・対話的な学び」と「実践的な学び」を通して、そのような能力やスキルを身に付けます。具体的には、ビジネス日本語学習や自己分析、面接、インタビュー、企業・業界研究等の個人学習のほか、PBL(Project-Based Learning; 課題解決型学習)を行います。PBLは、興味のある課題をグループで設定し、調査や分析を行い、グループ・メンバーや学内外の人々と対話し、主体的に行動しながらプロジェクトを完成させていくという活動です。このような活動を日本社会において日本語で行うことにより、日本語によるコミュニケーション能力や問題発見解決能力を身につけることができます。そして、そのような活動の過程で、日本の企業・業界やビジネス習慣・文化に関する知識を深めることができます。

また、この授業の成果発表の場として、期末に「学びのエキシビション」(学修成果の報告・共有のためのイベント)が予定されています。これは「PBLで学ぶアカデミック・キャリア7-8」との合同開催になりますので、準備活動のなかで合同授業を行うこともあります。

なお、この授業は、4限と5限に連続して実施されます。4限は基礎的、汎用的なビジネス日本語を学びます。5限はPBL(Project-Based Learning; 課題解決型学習)の活動を中心に、実践的なコミュニケーション能力と、自ら問題を発見し解決する能力を養っていきます。

5. 日本語教育研究センター事業との関連性と研究成果の還元方法

本プロジェクトの資料調査・分析作業は、CJL テーマ科目群における「アカデミック」と「ビジネス」カテゴリ科目に関する検討と並行して行われた。本プロジェクトの調査・分析結果を総合し、CJLにおけるキャリア支援のためのコースを開発、実装することでCJLの教育現場に還元していく予定である。

参考文献

- 芦田宏直 (2019) 『シラバス論』 晶文社.
奥野由紀子 (編著) (2018) 『日本語教師のための CLIL (内容言語統合型学習) 入門』 凡人社.
鈴木敏恵 (2012) 『プロジェクト学習の基本と手法』 教育出版.
寅丸真澄・尹智鉉 (2021) 「早稲田大学の日本語学習者が育むべき『ビジネス・コンピテンシー』とは何か」『早稲田日本語教育実践研究』9, (印刷中).
尹智鉉・寅丸真澄 (2021) 「早稲田大学の日本語学習者が育むべき『アカデミック・コンピテンシー』とは何か」『早稲田日本語教育実践研究』9, (印刷中).

(ゆん じひょん, 早稲田大学日本語教育研究センター)
(とらまる ますみ, 早稲田大学日本語教育研究センター)